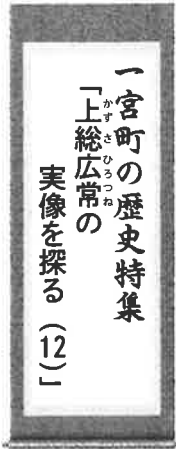


令和4年4月号



を祈願するものです。

敬白

上総國一宮玉前

立申所願事

一、三箇年中可レ寄ニ進神田二十町一事

一、三箇年中可レ致ニ如レ式造堂一事

一、三箇年中可レ射ニ万度流鎗馬一事

右志者、為ニ前兵衛佐殿下心祈願成就・東國泰平一也。如レ此願望令ニ々圓滿一者、弥可レ奉レ崇ニ神威光一者也。仍立願如レ右。

治承六年七月日

上総権介平朝臣廣常

令和4年5月号



寿永元年(1182)8月11日、

懐妊していた源頼朝の妻・北条政子(1157~1225)が産気づきます。

その際、祈祷(安産祈願)のため、鎌倉近隣の国々の有力な寺社へ使者が派遣されます。玉前神社も含まれており、広常の子・能常が派遣されました。

8月12日、政子は男児を出産します。のちの源頼朝(1182~1204)です。誕生の際、広常は引目役(出産の際に邪気を払うために引目(矢)を射る役)という重要な役をつとめています。また8月16日に行われた「五夜の儀」は広常が取り仕切っています。

このように、一時は不和になったとみられる頼朝と広常ですが、三浦半島での一件以後も、引き続き広常は頼朝政権内では重要な位置にいたことがわかります。とこ

ろが、頼家誕生時以降、広常の動向はわかっていません。というのも、この翌年の寿永2年(1183)の『吾妻鏡』の記事が欠落(存在しない)しているためです。

次に『吾妻鏡』に広常の名前が見えるのは寿永3年(1184)正月一日条で、昨年に広常の一件(謀殺)があり、その穢れで頼朝が鶴岡八幡宮に参拝しないという記事です。この時には広常はすでに亡くなっています。前年の12月に広常は謀殺されてしまっているのです。この空白の1年間に広常の身に何があったのか、詳細はわかっていません。ですが、残された資料から広常の死に迫っていきましよう。

置にいたことがわかります。とこ

『吾妻鏡』寿永元年(1182)正月二十三日条には、「広常は昨年以來、頼朝の機嫌をいささか損じていた。」とあります。おそらく先述した三浦での出来事がきっかけでしょう。そしてこの日、このような両者の関係を改善すべく、広常が庇護していた平時家(？~1193)という人物を頼朝に推挙したといえます。時家は平家一門でしたが上総國に流罪となった人物で、広常に気に入られ、広常の娘を妻に迎えています。

時家は蹴鞠や礼儀作法、京都の文化に通じていたため、頼朝にも気に入られ、時家はこの後頼朝に忠節を尽すことになりました。

このこともあって両者の関係が少し改善したのか、同年4月に頼朝が江の島(神奈川県鎌倉市)へ出かけ、た際の供の中に広常がみられます。

また同年7月、広常は玉前神社に次のような願文を結びつけた鎧を奉納したといえます。頼朝の武運長久



▲平廣常顕彰碑
玉前神社境内、昭和63年(1988)建立。広常が奉納したという願文の文章が彫られている。

【問合せ】教育課

☎(42)1416

(学芸員 江澤一樹)



▲梶原景時居館跡
(神奈川県寒川町。2018年12月筆者撮影。広常は景時によって殺されたという。)

【問合せ】教育課

☎(42)1416

(学芸員 江澤一樹)